



ゲントの旧市街は「kuip」として親しまれています。このツアーでは、この旧市街を2時間で散策します。興味深い建物を見学するとともに、さまざまなゲントの特産品をお試しいただくことができます。この散策は、食いしん坊の方、美しいものが好きな方にぴったり。きっとお楽しみいただけることと思います。でも、この散策以外でも、ゲントの魅力を満喫してくださいね。

ゲント、 心躍る本物の輝き 散策ツアー

聖バーフ広場は、ロンドンでいえばトラファルガー広場に相当するゲントの町の中心です。ここ、スケルト川とレイエ川の合流部近くのこの島で、ゲント市は生まれました。ゲントという名前は、ケルト語の Ganda（「合流点」の意味）に由来します。

町の中心であるこの広場には3つの力を象徴する建築物があります。空高くそびえる鐘楼(Belfry) ①は市民を、重厚な市民劇場(Civic Theatre) ②は知性を、そして、目を奪うような聖バーフ大聖堂(St Bavo's Cathedral) ③はキリスト教を表しています。

聖バーフ大聖堂は、元々は小さな教区教会でした。しかし、942年に建立された元の礼拝堂の名残をとどめるものはありません。聖バーフ大聖堂の最古の部分は地下聖堂にある2つのロマネスク様式の側廊です。この側廊は1150年に建てられたものです。

1540年に、神聖ローマ皇帝カール5世が「スペイン人の城」(Spaniard's Castle)を建設するために、近くにあった聖バーフ修道院(Abbey of St Bavo)の取り壊しを行った際、修道士達は聖バーフの上腕の骨などの聖遺物とともにこの教会に避難しました。1561年にゲントの司教区が設立されると、教会は自動的に大聖堂となりました。「cathedra」は「司教の座」を意味します。

聖バーフ大聖堂には、訪れる人を魅了する優れた芸術品が数多く收藏されています。見る者を圧倒する1745年建造のロココ様式の説教壇や、華麗なルーベンスの絵画に加え、この大聖堂には、フランドル芸術の歴史における最高傑作であるファン・アイク兄弟の祭壇画「神秘の子羊」が收藏されています。

大聖堂の正面玄関の向かいには鐘楼(Belfry)が空高くそびえています。この崇高な望楼の頂では、竜がゲント市民の安全、そしてゲント市が1180年に獲得した自由を守っています。最初の竜は重さ400キロの銅製の巨像でした。現在の竜は3代目の複製です。1377年製の最初の竜は見張り番の部屋に展示されています。

この鐘楼は、1999年にUNESCOの世界遺産に登録されました。ゲント市観光局は、鐘楼の隣りにある繊維ホール(Cloth Hall、ラジャ取引所)にあります(ここで、笑顔のスタッフからこのリーフレットをお受け取りになられたことと思います)。

市民劇場(Civic Theatre)の屋上からは、ミューズの女神達を率いるアポロ神が、見事に改装された広場を見下ろしています。噴水から流れる水をよそに、広場を囲む歩道沿いのにぎやかなカフェでは大量のビールが消費されています。

ゲントへのすべての道が通じるこの広々とした空間では、何時間でものんびりと過ごすことができますが、ここでは散策を続けましょう。Biezekapelstraat を通ってわずか50メートルのところにはほっと一息つける穏やかな場所があります。まるで、物陰に隠れた音楽家達があなたの散策のためにサウンドトラックを奏でているようですが、実際に演奏しているのはSikkel ④にある音楽アカデミーの学生です。この建物の塔は、その昔、大変裕福な家族がこの家に住んでいたことを表わすものです。この裕福な家には専用の井戸もありました(15世紀、ゲントには住民数65,000人に対して5つの井戸しかありませんでした)。

木造の支柱(橋ではありませんよ!)の下を通って進んでいくと、かつてのメインストリートに出ます。右のNederpolderを行くとスケルト港に出ます。左のHoogpoortを行くとレイエ川に出ます。ここでは、後者のHoogpoortを行くことにしましょう。Sikkelの正面(松明消しがあります)を過ぎるとBelfortstraatとの交差点に出ます。

この交差点の左手角にはクール サン ジョルジュ(Sint-Jorishof)ホテル ⑤があります。1477年にマリー・ド・ブルゴーニュ(ブルゴーニュ女公)も滞在したこともある西欧最古のホテルです。反対側には市庁舎(Town Hall) ⑥があります。この市庁舎を見ると、2つの建築様式がつながり合わされた建物であることに驚きます。右半分は16世紀初期の荘厳なゴシック様式、左半分はそれよりずっと後のイタリア・ルネッサンス様式です。市庁舎内部は600年の歴史を見つめてきたものです。予約をすればグループ見学することができます。

それでは、右に曲がってBelfortstraatを進みましょう。ゲント警察本部(人気テレビシリーズで知られています)を通り過ぎて、毎年夏に開催される人気のゲント祭の中心拠点である聖ヤコブ教会へ向かいます。12世紀に建立された聖ヤコブ教会(St Jacob's Church) ⑦は一見の価値がありますが、ここでは左へ曲がってKammerstraatへ入りましょう。

左手にゲイ・コミュニティ・センターがありますが、これはゲントの人々の偏見のない考え方と大きな心を証明するものとして、ゲント市民には詩心もあります。それを反映するものとして、金曜日市場(Vrijdagmarkt) ⑧の最も古い建物Torekenにあるポエトリーセンターがあります。この建物は、かつては皮なめしエギルドのものでした。ここでは、竜ではなく人魚がゲント市民を見守るとともに、風向きを知らせています。

Vrijdagmarktにあるその他の建物はすべて18世紀以降に建てられました。社会主義者の「人民の家」(Ons Huis, Bond Moyson)は20世紀初頭に建てられました。大きなアールヌーボー様式の窓があり、馬蹄アーチが目を引きませんが、建物全体はさまざまな様式が混在する折衷主義建築です。

かつては、ここにゲントで最初の人民病院がありました。

しかしながら、ヤコブ・ヴァン・アルテベルデ(Jacob van Artevelde)の彫像は反対方向を示しています。厳密に言うとイングランドの方向を指しています。アルテベルデが便宜上の理由からイングランド王を支援したことで、14世紀のゲントとフランドル地方全体は、百年戦争の間中立を守り、発展を続けることができました。この「ゲントの賢人」のお陰で、繊維産業はそれまでにないほど繁栄しました。アルテベルデはライバル達の手によって殺害されましたが、その後660年を過ぎた現在でも、ゲントはアルテベルデの町と呼ばれています。

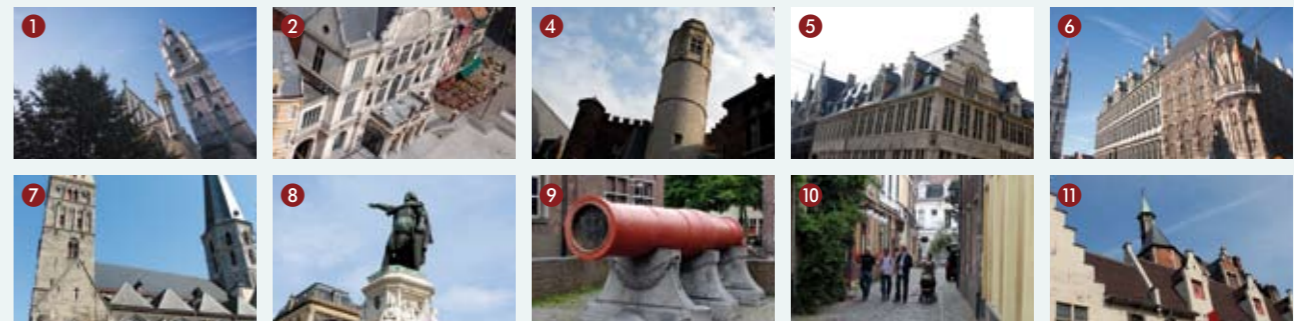
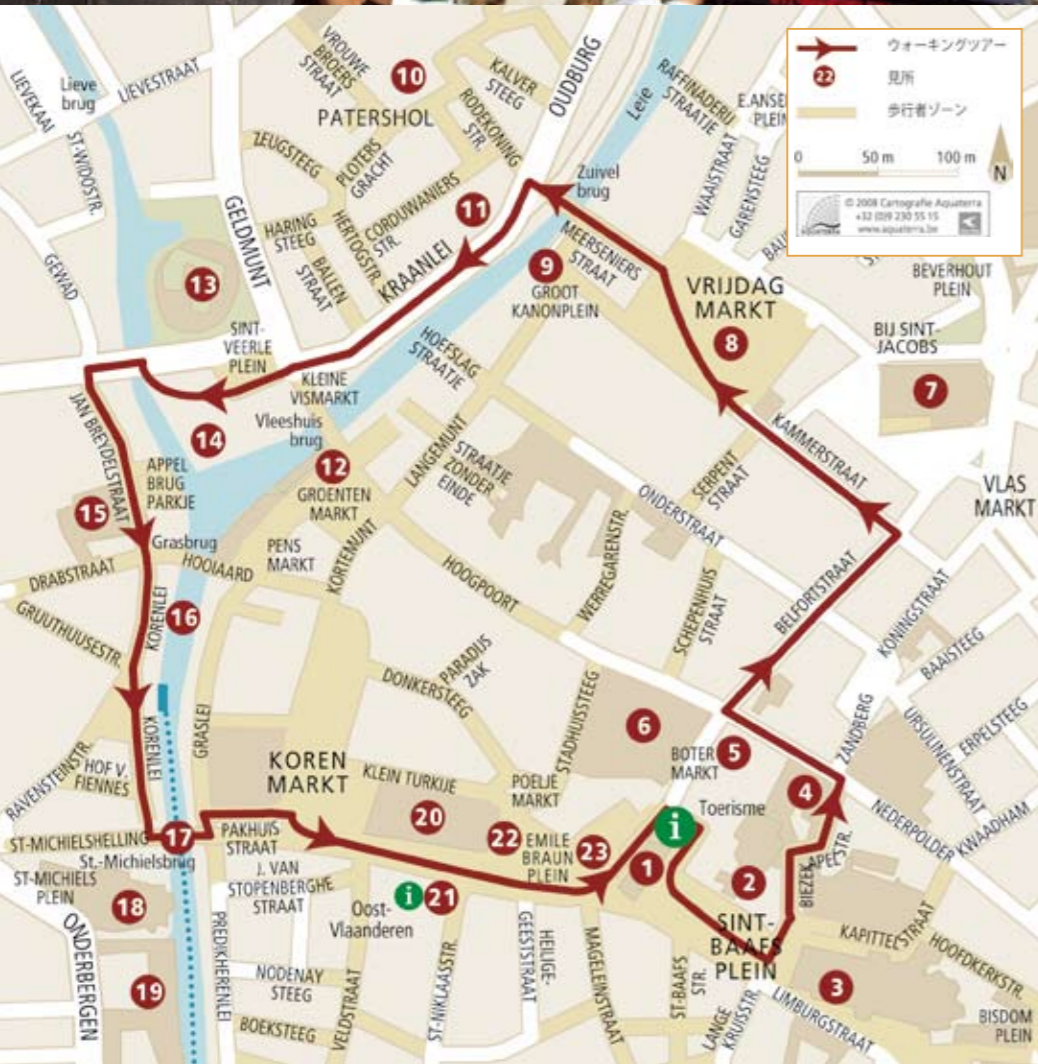
かつてはゲントで最も重要な広場であったVrijdagmarktを過ぎると、名高いフランドルファッションのデザイナー達の店が軒を連ねるMeersseniersstraatjeです。レイエ川にかかるZuivelbrugからは、左手にデュレ・グリート(Dulle Griet) ⑨が見えます。この印象的な鋳造鉄製の巨砲は、長い間ごみ箱や宿のない酔っ払いの野宿の場所として使われていました。そのため、現在は砲口は閉じられています。この巨砲がこの場所に備え付けられてから425年が経過していますが、発砲が行われたことは一度もありません。

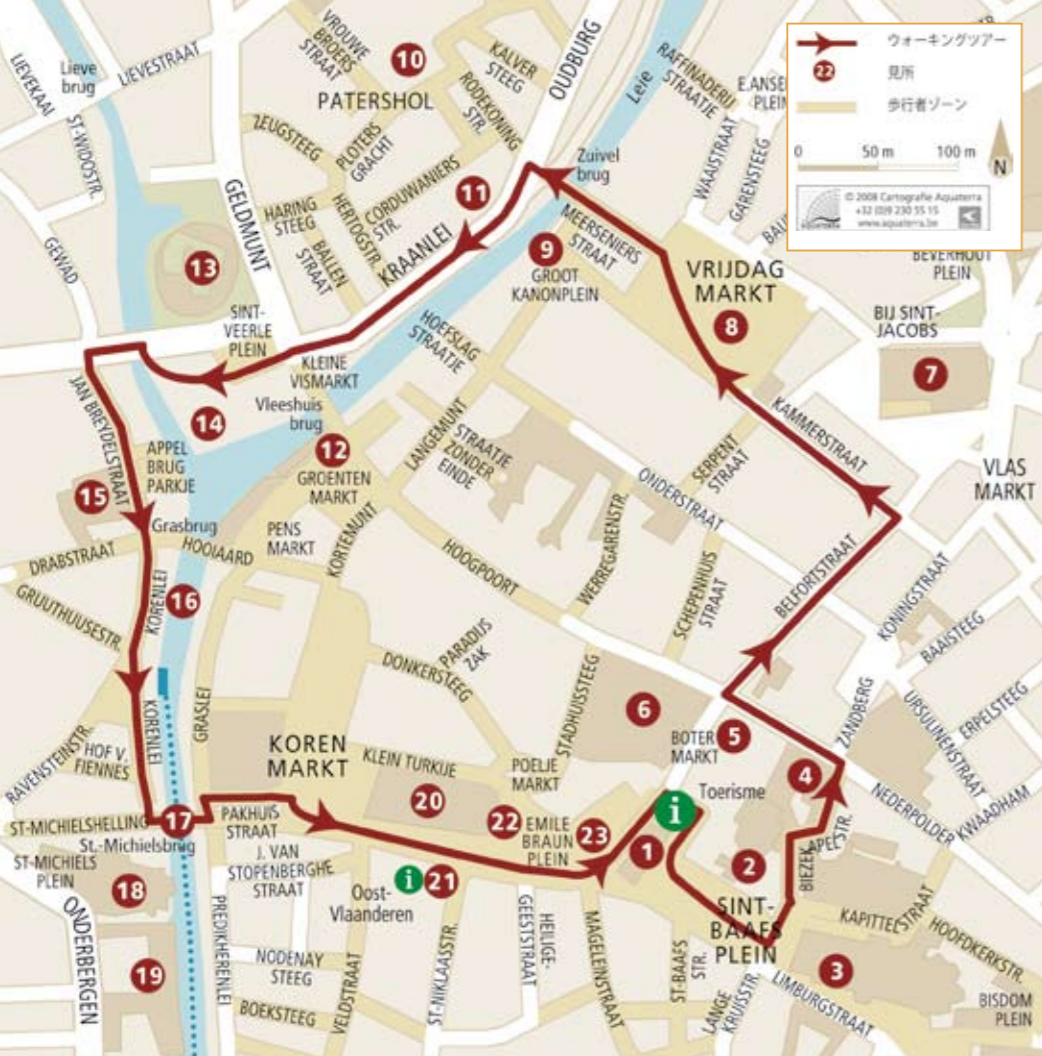
橋を渡ると、「kuip」を出て、「フランドル伯の領地」に入ります。この地域は、そもそもはフランドル伯の所有地であり、ゲント市には属していませんでした。まず目に入るのが非常に大きな2軒の家です。これらの家は17世紀に建てられました。この時代のゲントは繁栄からほど遠い状態だったため、建築は盛んではありませんでした。

左側の家(Kraanlei 79)は6つの「慈愛の行為」で装飾されています。さて、ここでなぜ7つではなく6つなのかと思われる方もいらっしゃるでしょう。本来は7番目も存在していたが、「死者の埋葬」は陰気だという理由で取り除かれたという見解について、最近では歴史学者も認め始めています。「空腹の人に食料を与える」(善行の1つ)のはおまかせください。この家は、Cuberdon(円錐形の甘いグミ)など、ゲントのさまざまな特産品を扱うお店となっているのです。

右側の家(Kraanlei 81)は五感を表現しています。フルート奏者、空飛ぶ鹿、そして屋根の上には、「信仰、希望、慈善」が表わされています。まっすぐ進むと、ゲントの最も古い地区に入ります。この美しい地区には中世の町並みがそのまま残っています。Patershol ⑩と呼ばれ、現在ではグルメの中心地となっています。

ここでは、左に曲がりKraanleiを通って、アライン施療院(Alijn Hospice) ⑪へ向かいます。魅力的な扉をくぐると静かな中庭があります。ベギン会修道院のように見えますが、違います。かつてベギン会修道院であったこともありません。ここは、ヘンドリック・アラインとゼーガー・アラインの殺人の償いとして建てられた神の家(教会)でした。そして、助けを必要とする女性のための避難所として使われていました。現在は民俗学博物館として、年齢の老若を問わず多くの人の想像力に訴えかけています。博物館見学で喉が渴いたら、中庭のカフェでひと休みすることもできます。





引き続き、Sint-Veerleplein に向けて進んでいきましょう。そして「The Waterhouse on the Beerside」の向かい側で立ち止まってください。ピアサイドのウォーターハウスだなんて、誤植ではないかって? いいえ、違うのです。このウォーターハウスは水の中に建つ建物で、大昔には、すべてのワインとビールがこの岸で荷揚げされました。現在はメキシコ風タパス・バーになっていますが、かつてはワイン検査官ギルドの建物でした(アルコール度を調べるのが彼らの任務でした)。ゲントの小便小僧が物欲しげに見つめています。それとも、もうお腹いっぱいなのかもしれませんね。

左手、橋の向こうに 大肉市場 (Great Butcher's Hall) 12 が見えます。ここでは、ガンダムから Cuberdon まで、東フランドル地方の特産品を購入できます。ただし、ゲント特産のマスタードを味わうには、もう少し先にある老舗マスタードショップティーレントアイン (Tierenteyn) まで歩かなければなりません。ここでは、今でも自家製のマスタードを販売しています。神聖ローマ皇帝カール5世も、一切れのハムを楽しむためにはマスタードが欠かせないと言っていたそうですよ。

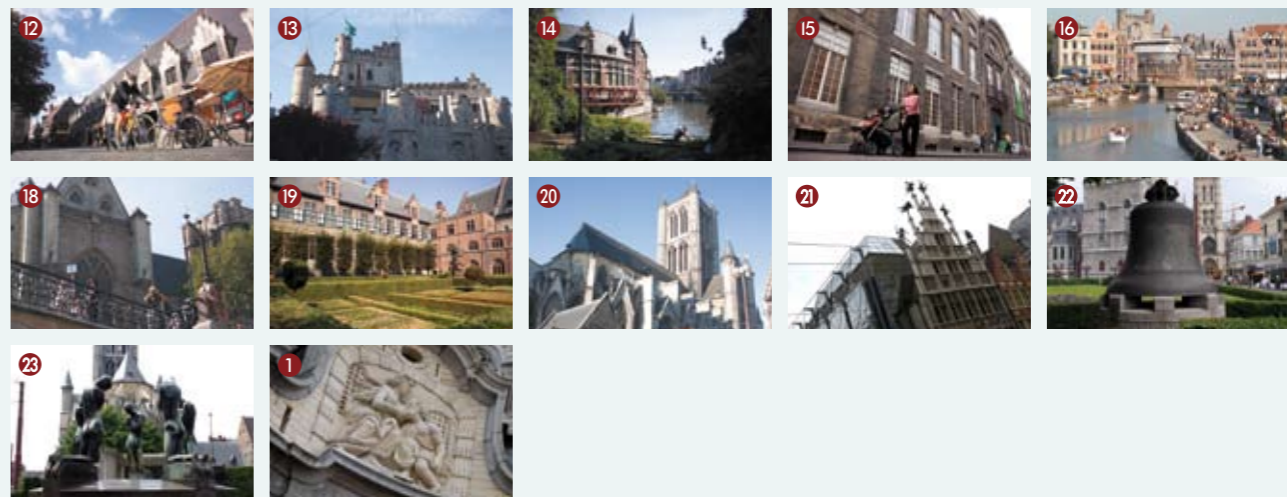
次の見所までは、心臓をドキドキさせながら散策を続けましょう。1180年に築かれたフランドル伯居城 (Castle of the Counts) 13 が目の前にそびえています。町の中心部にこのような巨大な城塞があるのは、世界中でゲントだけです。ゲントを訪れてもこの城の内部を見ていなければ、親指をねじで締め付ける拷問具や地下牢、そしてひよっとしたらギロチン (最後に使われたのは1861年) で痛い目にあうかもしれませんよ。これらはすべて城内部に展示されています。

敷地に立って城を眺めていると、今が21世紀であることを忘れてしまいそうです。しかし、ゲントは歴史的な遺産を保存しているだけではありません。未来へ目を向けた現代の町でもあります。国際的アートイベントの名残である巨大な蜘蛛の巣は、城塞そのものと同じように時の流れに試されていると言えます。

さらに進むと、旧魚市場 (Old Fishmarket) 14 (将来は、多目的ビジターセンターとなる予定です) の入り口の上に、スケルト川をあらわす男性像とレイエ川をあらわす女性像の間にはさまれた海神ネプチューンが見えます。リーヴェ川にかかる橋を渡りましょう。左手に、ゲントで唯一現存する木造家屋が見えます。右手遠方には、「De Gekroonde Hoofden」(「王冠を戴いた頭」の意味) ホテルの見事なファサードがあります。下の列の左から3人目が神聖ローマ皇帝カール5世です。

この散策や、その他の散策(一部は特定のテーマに沿ったものです)のガイド付きツアーもあります。
ゲントおよび東フランドル州ガイド協会
 (Gidsenbond van Gent en Oost-Vlaanderen)
 電話 +32 9 233 07 72 - www.gidsenbond-gent.be

ゲント市観光局 案内窓口
 Inquiry desk, Belfort (Raadskelder)
 Botermarkt 17A - 電話 +32 9 266 56 60
visit@gent.be - www.visitgent.be



Jan Breydelstraat を半分ほど行ったところに至福の喜びが待っています。こじんまりとした Appelbrugparkje は町の中心地に隠された数々の宝石の1つです。その向かい側には、ゲント・デザイン・ミュージアム (Design museum Gent) 15 があります。ここでは、他に類を見ない常設展示コレクションに加え、国際的な芸術家の展示会が行なわれます。中庭にある巨大な花瓶のオブジェを見るだけでも入場する価値がありますよ!

魅力的な見所はまだ先にも控えています。さらに数メートル進むと、グラスレイ (Graslei) とコーレンレイ (Korenlei) 16 が見えてきます。グラスレイ (Graslei) とコーレンレイ (Korenlei) は両方あわせて、11世紀以降ゲントで最初の貿易港でした。レイエ川の左右岸に並ぶ建物は、時を経て変わらぬ美しさがあります。この風景は、多くの観光ガイドブックにおいて欧州で最も美しい都市景観とされていますが、まさにその通りです。

コーレンレイ側を進むと、右側にシント・ミヒール橋 (Sint-Michielsbrug) 17 があります。この橋から水面越しに眺めると、ゲントの旧市街を一望に見渡すことができます。ゆっくりとご覧になって、この風景を記憶に焼き付けてください。写真を撮るのも良いでしょう。

階段を登れば橋の上に出ます。聖ミハエル教会 (St Michael's Church) 18 の塔は高さ138メートルになる予定でしたが、完成には至りませんでした。表向きの理由は安全上の問題ですが、実際は誇大妄想的な計画だったために予算が足りなかったのが原因です。川沿い、教会の後ろには Het Pand 19 があります。この旧ドミニコ会修道院と病院は、現在はゲント大学の所有で、文化センターおよび会議施設として使われています。

市の中心に向かって歩いていくと、商業の中心地に入ります。通りの左右には店舗が軒を連ねています。しかしここでは、ショッピングの誘惑に耐えて、まっすぐ進みましょう。そうすると、スケルトゴシック様式の優れた例である聖ニコラス教会 (St Nicolas' Church) 20 を通って石工ギルドの家 (Metselaarshuis) 21 へ出ます。この16世紀の建物のファサードは、後世に建てられた職人たちの家の後ろに長い間隠されて残されていました。現在では、この独特の美しさをもう一度堪能できるようになっています。さらには、ゲント出身の彫刻家・フォークシンガーであり、ゲント祭の発起人でもある Walter De Buck 作の6人の踊る悪魔が加わり、人々の目と想像力を刺激しています。東フランドル州観光局はこの建物にあります。

さて、そろそろ散策を開始した地点に近づいてきました。Grote Triomphante 22 でちよっとひと休みです。これはKlokke Roelandの遺物から鋳造された鐘です。当時は悪名高かったKlokke Roelandも1659年には破壊されました。この鐘も、いつか55番目の鐘として鐘楼のカリヨンに戻りたいと願っているのかもしれませんが。ところで、日曜日の朝にこのリーフレットをお読みですか? もしその通りなら、今まさに素晴らしいカリヨンコンサートに耳を傾けていらつしやるかもしれませんね。

ひざまずく者たちの噴水 (De Bron der Geknielden) 23 は、ゲントの市民には「pissers (小便野郎)」と呼ばれてややさげずまれています。ロダンと同時代のジョルジュ・ミンヌ (Georges Minne) の名作です。5人の若い男たちは、自分たちが何者であるかという問いの答えを待って、100年以上も水の中を見つめ続けています。残念ながら、この男たちに返ってくるのは答えではなく、問いそのものです。

次に見えるのは 旧牢獄 (Mammelokker) 1、古い看守小屋の入り口の上にある薄浮き彫りです。これはキモンの伝説を表したもので、キモンは飢餓による死刑を宣告されましたが、キモンの娘が母乳を与えて生かされたと言われています。私たちは、そこまで必死の策を打つ必要はありません。Mammelokker からわずか数歩のところに、歩道沿いに並ぶ沢山の心地よいカフェのテーブルが私たちを待ち受けていますよ。それでは、乾杯!